

月刊 笑

vol. 22

2025年9月25日発行



法人事務局 主任 **杉山 淳彦**

約30年におよぶ介護福祉士のキャリアと並行して、M-1グランプリへの挑戦やYouTubeでの活動など、ユニークな経歴を歩んできた杉山淳彦さん。「介護の仕事を魅力的に伝えたい」という熱い想いを胸に挑んできたこれまで、そしてこれからに迫ります。

介護の仕事だけでなく、幅広い活動に取り組んできた原動力を教えてください。

幼い頃から、目立ったり人を笑わせたりすることが大好きで、また、祖母の介護をする母の姿を見て「人の役に立ちたい」という思いが芽生え、この仕事を選びました。

業務には、「多くの人に介護福祉士の存在を知ってほしい」「この仕事の素晴らしさを、より魅力的に伝えたい」という強い気持ちで臨んできました。実際の介護の現場は、大変なだけでなく、温かさや笑いに満ちています。そのポジティブな側面を世の中に伝えるために思いついたのが、大好きな「お笑い」との融合。「介護福祉士×お笑い」で

目立てば、多くの人が興味を持ってくれるのではないかと考えたのです。

そこからは、考えるより行動でした。M-1グランプリの予選に出場したり、NHKのど自慢に挑戦したり……。予選落ちにもめげず、その後もお笑い番組の素人参加コーナーに出演。芸能プロダクションにも所属して、芝居や表現を学びました。YouTubeで「介護はかせ」として動画投稿を始めたのも、「笑い×介護」を多くの人に届けたいという一心からです。



▲悠優かしまのイベントで「麦畑」を披露♪



▲管理者を担っているグループホームで利用者様と

型破りな挑戦を通じて得た「伝える力」や学びが、現在の仕事にどう活かされていると感じますか。

すべての経験が、今の仕事の糧になっていると感じます。お笑いや芝居を通じて学んだことは、物事を多角的に捉え、わかりやすく、面白く伝える「表現力」です。これは職員向けの研修や職場でコミュニケーションを図る際に、非常に役立っています。堅苦しい話でも、少しユーモアを交えるだけで、相手の心への届き方が全く違うのです。

また、海外研修で福祉国家のスウェーデンを訪れた際は、スキンシップを重視したケアの効果を学ぶことができました。スウェーデンでは、認知症の利用者様とハグやダンスをして、興奮状態を落ち着かせていました。これこそが「手当て」という日本古来の言葉にも通じる介護の本質だと感じ、現場でも実践するようになりました。

一度は情熱を失いかけた時期があったそうですが、再び自分らしさを取り戻すことができたのはなぜでしょうか。

実は15年前、住み慣れた関西を離れて熊本へ移住しました。当初は、関西特有の「ノリ」が通用しない雰囲気戸惑いがあり、情熱を注いできた介護の仕事に対しても、どこか距離を感じてしまい、本来の自分を見失いかけてしまったのです。

その際に転機となったのが、社会福祉法人千寿会の白石理事長との出会いでした。理事長が私のユニークな経歴に興味を持ち、受け入れてくださったことで、「ここでなら、もう一度自分らしく輝けるかもしれない」と思えたのです。

さまざまな経験をされた今、改めて、介護の仕事で最も大切にされている信条や、職場でのご自身の役割についてどうお考えですか。

介護の仕事は楽ではありませんが、「人の力」によって大きな付加価値を生みだせると確信しています。だからこそ、私自身が「誰かの心に少しでも灯りをともせるような存在」でありたいと常に願っています。

職場では、事務職という立場から、現場で頑張る職員の皆さんを全力でサポートするのが私の役割です。ときには笑いを通じて職場の雰囲気や和ませ、ときにはこれまでの経験を活かして相談に乗る。皆が前向きな気持ちで利用者様と向き合える環境を作っていくことが、今の私にできる一番の貢献です。

最後に、ご自身の夢や目標についてお聞かせください。

この世に生まれて半世紀が過ぎ、人生の第2章に突入しました。これまで培ってきた「伝える力」を活かして、新しい取り組みにも積極的に挑戦していきたいと思います。

個人的な夢は、生涯人を笑わせ続けること。笑いをテーマに、周囲にパワーを与えられるような存在になりたいと思います。夢や目標、そして挑戦が、私にとっての「生きる糧」です。

「人を笑顔に」を合言葉に、職場に活気と笑顔をもたらす杉山さん。その情熱は、この先に待っている未来を明るく照らすことでしょう。



▲悠優かしまの運動会にて

利用者様の心をつかむ

コミュニケーション

コミュニケーションの秘訣

「グレちゃん」と多くの利用者様から親しまれている陽光園本館の北里グレテルさん。利用者様とのコミュニケーションのポイントは、「気遣い」と「言葉選び」。

今すぐ真似できるテクニックをご紹介します！

利用者様と心を通わせる上で、 一番大切にしていること

「安心」を届ける、寄り添う姿勢

一番大切にしているのは、利用者様のお言葉に耳を傾けることです。まずはこちらから積極的にお声掛けし、ゆっくりお話を聞くよう心がけています。「何か困っていることはありますか?」と尋ねることも欠かしません。ご家族様のことを心配されているときは、「後で私がお電話する際、お伝えしておきましょうか」と提案し、少しでも安心していただけるよう努めています。



▲新聞を見ながらコミュニケーションをとっている姿

日本とフィリピンの 介護や文化で 違いを感じますか?

異文化で出会った、心温まる言葉

日本の介護は素晴らしいと感じます。また職場も、挨拶を大切にすることが素敵だと思います。もちろんフィリピンにも挨拶の習慣はありますが、職員同士で「お疲れ様」「ありがとう」と自然に声を掛け合う日本ならではのコミュニケーションが好きになりました。今では私自身も、利用者様や職員の皆さんへの挨拶を大切にしています。



▲平行棒訓練の様子

後輩職員へアドバイス

違いも、交流のきっかけに

慣れないうちは大変でも、一生懸命取り組んでほしいと思います。私も来日当初は日本語に苦労しましたが、今では利用者様とたくさんお話できるようになりました。日本語の習得はもちろん大切ですが、自分の国の言葉や英語を教えてみるのも良いコミュニケーションになります。例えば朝の挨拶を「Good morning」にするだけで、利用者様も新鮮に感じて真似してくれます。教え合うことを通して、楽しく良い関係を築けるはずです。

陽光園本館

きたざと

北里 グレテルさん

利用者様を 元気づけるための工夫

ユーモアと、ほんの少しの特別感

私自身がいつも笑顔でいることを心掛けています。それが、利用者様の元気につながれば嬉しく思います。「家に帰りたい」と寂しそうにされている方には、「今度一緒にお茶を飲みに行きましょう」などと冗談を交えて話しかけると、気が紛れるのか、笑顔を見せてくださることが多々ありました。また、午前10時頃のドリンク提供では、「スペシャルコーヒーですよ!」と声を掛け、特別感を演出。皆さんに大変喜ばれ、おかわりされる方もいらっしゃいます。「美味しかった」の一言が、私の喜びになっています。

「元気の源」は何ですか?

支え合う仲間と、深まる絆

職場の皆さんの存在が、私の元気の源です。職員同士が優しくサポートし合う環境で、わからないことも皆さんが丁寧に教えてくれます。もちろん、「グレちゃん」と名前を呼んでくださる利用者様の存在も、モチベーションにつながっています。

フィリピン 出身の

特定技能生を ご紹介!

フィリピンから日本へ。

それぞれが描く夢と希望を胸に、介護の現場で新たな一步を踏み出した特定技能生の皆さん。文化や言葉の壁を乗り越え、利用者様との心温まる交流の中で日々成長を続ける3人の、仕事にかける情熱と未来への想いに迫ります。

◆ 出身地

美しい海と焼き鳥が名物

私の出身地はフィリピンのバコロド市。海に面した美しいところです。食べ物が美味しく、甘辛い焼き鳥「イナサル」が特におすすめ。ご飯やビールとの相性も抜群です。おすすめの場所は山のリゾート「キャンプ・ウェストハム」と、真っ白な砂浜が綺麗なビーチ。泳ぐのも大好きです!

◆ 千寿会との出会い

アニメがつないだ日本への想い

子どもの頃から日本のアニメが大好きで、「日本へ行きたい」という夢を抱いていました。イギリスで7年、熊本で3年間介護の経験を積んだ後、もっと日本で働きたいと考えるようになりました。そんなとき、友人の紹介で千寿会を知り、見学へ。施設の明るい雰囲気が決め手となり、すぐに働くことを決意しました。



コミュニティハウス
みんなの家

マリ・ベンデルン・トゥリオさん

◆ 驚きと成長の日本での日々

文化の違いと温かい交流

日本に来て驚いたのは、マナーやルールの厳しさ。特に、フィリピンにはないゴミの分別に戸惑いました。皆がルールを守る姿は素晴らしいと感じています。また、熊本弁の「よかよか」という言葉。はじめは意味がわかりませんでしたが、今では私もよく使っています(笑) 千寿会に来て4か月、利用者様と一緒に天草へドライブに行ったり、送迎を手伝ったりと、新しい経験ばかり。フィリピンの家庭料理「アドボ」を職員の皆さんに振る舞うなど、楽しく過ごしています。



ご利用者様と



母国で



◆ 今後の目標

介護福祉士合格と、さらなる仕事への挑戦

これからの目標は、介護福祉士の国家試験に合格すること。2年後の取得を目指して、日本語会話のレベルアップと漢字の勉強も頑張っています。仕事では、現在は日勤が中心ですが、これから夜勤などもっと色々な業務に挑戦していきたいと思っています。資格を取って、ずっと日本で介護の仕事が続いていくのが私の夢です。目標に向かって、今後も頑張ります!



ヒハポン・イヴォニー・ビラリエスさん

◆ 驚きと成長の日本での日々

仕事を楽しむことが、成長の証

日本に来て一番驚いたのは、医療制度の素晴らしさです。実は、来日前に母をがんで亡くした経験があり、フィリピンでは大変な思いをしました。だからこそ、日本の患者様への手厚いケアは本当に素晴らしいと感じます。そして千寿会ならではの面白いところは、犬と猫が1匹ずついることです。利用者様だけでなく私たち職員も、とても癒されています。千寿会で働き始めて4か月。利用者様全員の名前も覚え、入浴介助や夜勤もできるようになりましたが、この4か月で一番成長できたのは、「考え方」かもしれません。外国で働くのは大変なことも多いのですが、今では仕事を楽しむことができるようになり、それが自分自身の成長だと感じています。



陽光園東館で働く様子

◆ 出身地

太陽とフルーツの恵みあふれる故郷

私の出身は、フィリピンのダバオという町です。海が近く、たくさんのバナナ農園が広がっています。実は私もバナナ農家で育ちました。もしフィリピンを旅行する機会があれば、美しい「シャルガオビーチ」はもちろん、ぜひバナナ農園も訪れてみてください。日本で食べられている甘いバナナが、どのように作られているのかを知ることができます。故郷の好きな食べ物は、やはりフルーツです。フィリピンは一年中さまざまな果物が採れる熱帯国なため、果物の王様といわれるドリアンや、甘いマンゴーが特におすすめです。



母国で

◆ 千寿会との出会い

決め手は、職員の皆さんの温かさ

日本は美しいだけでなく、世界的に見ても安全な国だと知られていたため、働くなら日本がいいなと思っていました。以前は、別の施設で3年間、技能実習生として働いていました。そのとき、千寿会で働く友人に誘ってもらったのが最初のきっかけです。一度見学させていただいた際、職員の皆さんがとても優しく、温かい雰囲気を感じました。その印象が決め手となり、ここで働きたいと思いました。実際に入社してからその印象は変わりません。皆さんが助け合っているのを日々実感しています。

◆ 今後の目標

明確な目標を胸に、未来へステップアップ

まず1年間の目標は、もっと仕事が早くなることです。そして5年間の長期的な目標としては、日本語のレベルをさらに上げて、外国人のための試験に合格したいと考えています。現在は日本語能力試験のN3レベルを持っていますが、12月にはN2の試験に挑戦する予定です。仕事の後、スマートフォンで単語を覚えるなど勉強を続けていますが、特に漢字が難しいと感じます。これからも、利用者様のサポートがもっとうまくできるよう、仕事と勉強の両方を頑張ります。



ビラルス・ジェリー・ランバティングさん

◆ 驚きと成長の日本での日々

日本の文化と働きやすさ

日本に来て、ゴミの分別が細かいことやお店のトイレが綺麗なことに驚きました。フィリピンではあまり見られない、お辞儀をして挨拶する文化も素晴らしいと感じ、今ではすっかり慣れました。千寿会はユニット型で利用者様が10人と少人数のため、一人ひとりの方としっかり向き合えます。名前や性格も覚えやすく、私に合っていると感じています。

4か月で実感する確かなスキルアップ

ここでは先輩方のサポートのおかげで多くを学んでいます。以前の職場では未経験だったバイタル測定やお薬の介助、記録業務、1人での入浴介助もできるようになりました。最近ではユニットを1人で担当する早出・遅出勤務も始めています。周囲から「ジェリーなら大丈夫」と信頼してもらうことができ、嬉しく思っています。



悠優かしまで働く様子

◆ 出身地

美しいビーチとドリアンが有名

私の出身はフィリピンのダバオ市。街の中心部からバスで1時間ほど離れた、自然豊かな山の中で育ちました。ダバオの魅力は、美しい景色と有名なビーチです。食べ物では果物の王様・ドリアンが一番有名で、独特の匂いがありますが、一度食べるとやみつきになる美味しさ。私も大好きで、旬を迎える8月は特に楽しみにしています。



母国で

◆ 千寿会との出会い

国家資格取得の夢

以前から日本で介護の仕事に就き、国家資格を取得したいという夢がありました。3年前に来日して研修を経て、介護の仕事スタート。千寿会で働くことを決めたのは、職員の皆さんが優しく、困ったときにすぐ相談できる温かい雰囲気に惹かれたからです。以前住んでいた水俣に比べてお店も多く、休日はイオンモールなどで買い物を楽しんでいます。

◆ 今後の目標

家族を呼んで一緒に生活

一番の目標は、介護福祉士の国家試験に合格することです。特定技能として3年間の実務経験が必要なため、まずは実務者研修を受け、試験に向けて勉強を頑張ります。将来は資格を活かして永住権を取得し、フィリピンの家族を日本に呼び寄せて一緒に暮らすのが夢。その実現のため、これからも仕事に励んでいきます。